

スタッフの新年会が 開催されました!

2015年、年明けの1月28日に「ニューイヤー祭り」と題しまして、ビーンズスタッフの新年会を行いました。いつもは忙しくて、ゆっくり話す機会が少ないスタッフも、たまには膝を突き合わせて、たくさんの事を語り合いながら交流をしようという企画の第2弾!(第1弾は芋煮会を秋に開催しました。)

今回は福島市での開催にも関わらず、福島はもちろん、郡山からも仕事終わりで駆けつけてくれる方も。参加人数は当初の予想を大幅に超える25名ものスタッフ参加がありました。料理上手なスタッフが作るおいしい坦々鍋や海鮮鍋。そして福島名物円盤餃子も登場です。「冬はやっぱり鍋だね」と舌鼓を打ちながら、みんな楽しく交

流を深めました。会場セッティング、買い出しや料理、後片付けまで、みんなで創りあげた新年会。たくさん話して、たくさん笑えるとても素晴らしい1年のスタートを切ることができました。今後もビーンズスタッフ一丸となり、事業に取り組んでいけるイベントを行っていきます。ちなみに春はお花見を企画中!



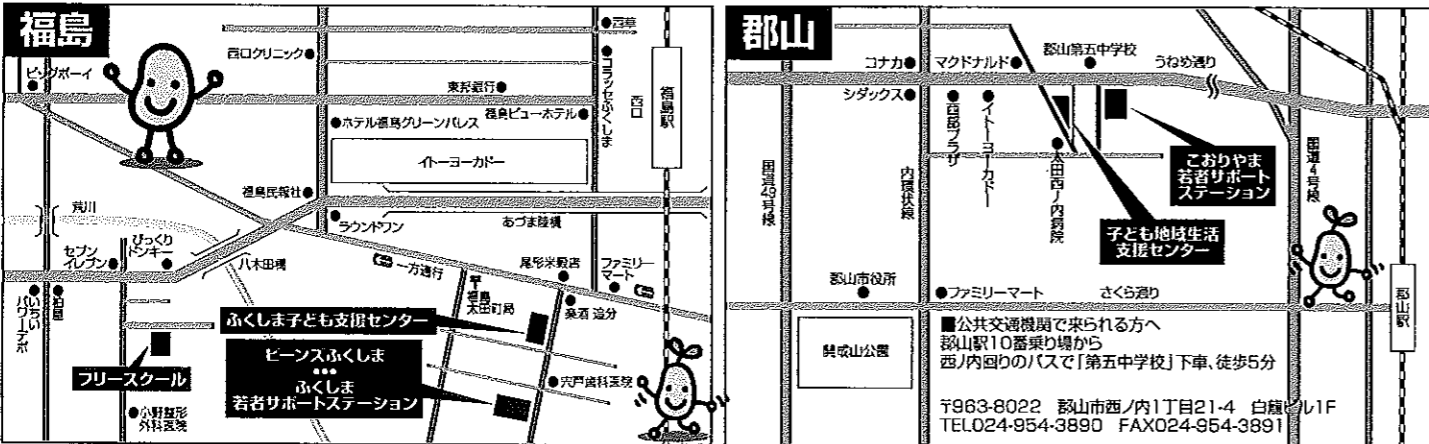
これからの活動予定

- 卒業と成長を祝う会
3月14日(土) フリースクールビーンズふくしま
- 修学旅行[フリースクールより]
3月23日(月)
- みんなの家@ふくしまオープン
3月19日(木)
- 親の会(不登校のお子さんのおられる親御さんの集まり)
4月25日(土) 13:30~15:30
フリースクールビーンズふくしま

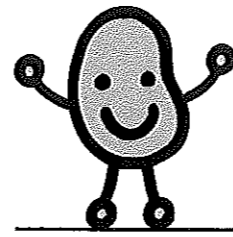


編集後記

私は最近テレビで放送されている海外情報番組を見ることにハマっています。初めて海外へ行ったのは、高校2年生の夏休みに語学研修で行ったオーストラリア。ほぼコミュニケーションはとれませんでした。初めて肌で感じた異国を今でも忘れることはありません。あれから数か国旅行をし、まだまだ行きたい国は沢山あります。今はテレビで雰囲気だけでも感じて、いつか渡航する日まで自宅学習をしたいと思います!



●ビーンズふくしまのホームページ はこちらへアクセス → <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>



ビーンズ通信

●発行日/2015年3月10日

Vol.68

●発行元
特定非営利活動法人
ビーンズふくしま
〒960-8066 福島県福島市矢矧町22-5 2F
TEL&FAX 024-563-6255
URL <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>
E-mail info@beans-fukushima.or.jp

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもやひきこもりの青年などに安心できる居場所を提供し、1人1人に寄り添って、ゆるやかな社会参加を促し、その自立を支援する、若者支援の理念に基づいて事業を展開しています。

報告 来年は、福島にやってくる全国大会!

2月21日~22日に、沖縄で行われた「全国若者・ひきこもり協同実践交流会inおきなわ」に、ビーンズふくしまから4名のスタッフに参加しました。大会の様子を報告させていただきます。

10回目を迎える、この全国大会は和歌山から始まったそうです。当時、ひきこもり支援の方法を模索した、ひきこもり支援実践者達が支援の為に教科書を探した時に、世の中に求めている「それ」が無い事に気づき、であれば「自分達で学びを創るしかない。」「全国から仲間を集め、理念や方法論を積み上げるしかない。」との思いで始めた大会だと聞きます。今回も北海道から沖縄まで、支援者・当事者・保護者・行政職員・研究者が集まり、実践を持ち寄り議論を深める場となりました。毎年開催地を移動し、開催地のひきこもり支援・若者支援の運動を加速させる狙いもあるそうです。実際に過去、開催地域で大会を通じて支援の機運が高まり支援団体が出来た話や、実践交流を共有する事で行政民間の連携が加速した実例があるそうです。

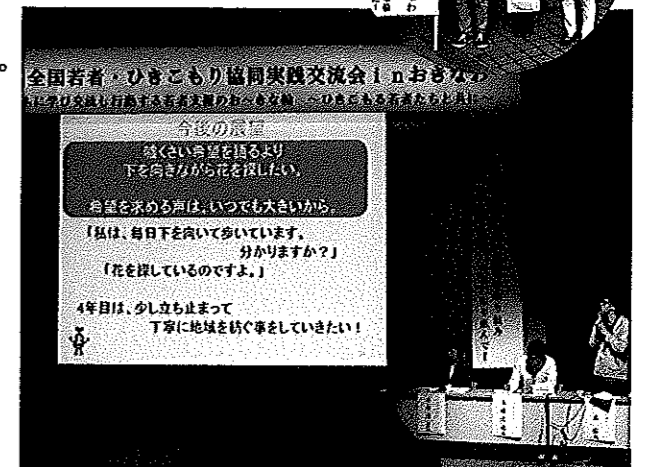
大会に、学びや出会いを期待した面の他に、今回は別の意図もありまし

た。それは来年度、この大会が福島で開催されるとの事です。ビーンズとしても、この大会を通じて、震災後の福島における、ひきこもり支援・若者支援の在り様や地域として目指す活動のあり方を深めたいと思っています。

大会中の報告の一部で、「不登校やひきこもりの若者たちを《困難を抱える若者》と言う表現に対して、この言葉は、若者が出会っている困難を個々人の側に求める言葉であり、日本社会が若者に向けている自己責任の言葉ではないか?」との訴えがありました。困難を個人によせるのではなく、「不利な状況にある若者」と位置付け、個人の問題ではなく社会問題として包摂の眼差をもち、その若者と共に生きやすい社会を創っていく実践への転換への訴えは強いメッセージとして大会の議

論を加速させました。

来年、私たちは個人への支援手法を超えて、同じ社会を生きる仲間として若者や子ども達と、どんな社会を目指すのか?そのため実践とは何か?多くの人と議論しながら実践の探求を大会を通じて行います。皆さんもぜひ!!



3.11 4度目を迎えて

あの日から4年目を迎える今年。常磐自動車道の全線開通が華々しく報じられる一方、大熊・双葉町の中間貯蔵施設への除染廃棄物搬入も開始されることが発表されました。

福島状況の複雑さを、あらためて感じさせられるニュースでした。今、県外に避難されている方4

万7千人、県内に避難されている方7万2千人、そのうち子どもたちは県内、県外避難それぞれ1万2千人。そして、避難をしていない方たちもまた、さまざまな想いを抱いています...不安を抱きつつも明日への一歩を決断する方たち、現状からどう次の一歩を進めていいかわからずにいる方たち、それぞ

れが迷いつつ...

ビーンズふくしまは、この4年の間そうした方たちと共に歩んできました。そして、これからもまた、この福島の地で共に悩み、共に語り、共に学び、共に動いていきたいと思っています。子どもたち・若者たちひとりひとりに本当の笑顔が戻るように。



今年もみんなで お餅つき!

冬の風物詩のもちつきが今年度も各事業で行われ、ビーンズのうすときねも県内を南に北に忙しく動き回りました。つきたてのおもちをみんなで食べる喜びは、寒い冬に身も心も温めてくれました。



うつくしまふくしま 子ども未来応援プロジェクト

県北・県中合わせて5カ所の仮設住宅でのもちつきは、普段の活動よりも幅広い世代の住民に参加してもらえる良い機会です。特に年配の方々の経験が、美味しく出来上がるためには欠かせません。子どもたちも周囲の大人に見守られながら、少し恥ずかしそうにカー杯きねを振り上げました。つき上がったおもちをどのように食べるかは、各仮設の住民におまかせです。いろんな味や食べ方を楽しむことが出来ました。

フリースクール・ピアサポート事業

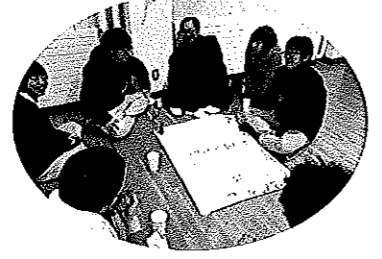
フリースクールとピアサポート事業合同で、大人数でわいわいとお餅つきをやりました。重たい杵を大きく振りかぶって「あ、よいしょ!」と声を掛け合いながら餅をつく姿は真剣そのもの。出来たホカホカのお餅を、あんこや納豆などを付けて美味しく頂きました。最初は初対面の事もあり、緊張していましたが、餅つきを通して気がついたら一緒に笑顔になって楽しんでいました!

子ども健全育成事業

初めての臼と杵での餅つき。子どもたちは、元気一杯なかけ声と笑い声で餅つきをしました。自分たちでついた餅で作った料理に子どもたちは食欲旺盛で沢山おかわりをしていました。餅を食べた後は、新聞紙ボールで雪合戦。作戦を練りながらの攻防は接戦となり、皆でいい汗をかきました。今回、お世話になりました皆様方、本当に有難うございました。

コラム ふくしまから始まる“これからの学び”

1月31日(土)~2月2日(月)にかけて、子どもの社会参画をキーワードに、福島を学ぶの形から問い直すきっかけとなる「ふくしまのこれからカレッジ」が開催されました。



この大会は「東日本大震災を子どもの学びの視点からとらえた時、いつまでも「受身の学び」や「このままの学び」で良いのかを問い直す、主体性に基づいた学び合う社会のきっかけにしたい(主催: NPO法人寺子屋方丈舎理事長の江川様)」といったメッセージが込められています。

子どもたちの主体性を育む場を、これからも子どもたちと一緒に考えていきたいと改めて感じております。

子どもの主体性を育む実践者たちからの事例を聞くことで「問い」や「発想」が深まり、休憩時間や交流会の時間でも、あちらこちらで議論が生まれていきます。「もっと考えたい」という主体的な学びの意思により、最終日には参加者が自分たちで学びの場をつくる=自主分科会も形成さ



ぱぱカフェ



ぱぱカフェから生まれる!? ふくしまイクメン☆

ご家族が避難している、ご家族が避難先から戻ってきた、避難経験がある、等のパパを対象とした、ぱぱカフェを毎月一回開催しています。

まだまだ参加者は少ないですが、「絶対にぱぱカフェを続ける!」と決意したのは、あるパパが自己紹介で、震災時から現在に至るまでを滔々と話し「こんな話をしたのは初めて! スッキリした」と、表情が和らいだのを見たからでした。来年度は、パパたちと一緒に「パパサークル」を立ち上げたいと考えています! パパたちと一緒に、一歩ずつ☆

子どもにとって安心・安全なビーンズをめざして

〈プログラム提供〉公益財団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン様

1月26日矢剣会館にて、ビーンズにかかわる子どもたち若者たちが安全に、安心して活動に参加するために、私たちが取り組むべきことは何かを学び考える、スタッフ研修を行いました。ここでは、そこで学んだ子どもに関わる基本の考え方の一つである「子どもの権利条約」についてご紹介します。

子どもの権利条約

この条約は1989年に国連総会で採択され、日本政府はその5年後に批准をし、現在は195か国の国がこれを批准しています。

子どもの権利条約では0歳から18歳未満のすべての人のことを子どもと定義し、大きく「生きる権利」・「育つ権利」・「守られる権利」・「参加する権利」の4つの柱(条文は42条)から成り立っています。

想像力をもって

研修では1枚の子どもの写った写真が配られ、この子が「何をしたいか、何をしてほしいか」を考えるワークをしました。扉の向こうからこちらを見上げる子どもの表情を見ながら、「ご飯が食べたいのかな。」「遊びに行きたいのかな。」「家に入りたいのかな。」「怒られたくないな。」「無視しないで…」…想像力を膨らませました。「権利」と聞くと特別な難しいものという印象がありますが、子どもにとっての安心・安全が大人の手によって

侵害されていないかを想像し、環境を整えていくことが大切なのだろうと感じました。

権利について話し合っていくこと

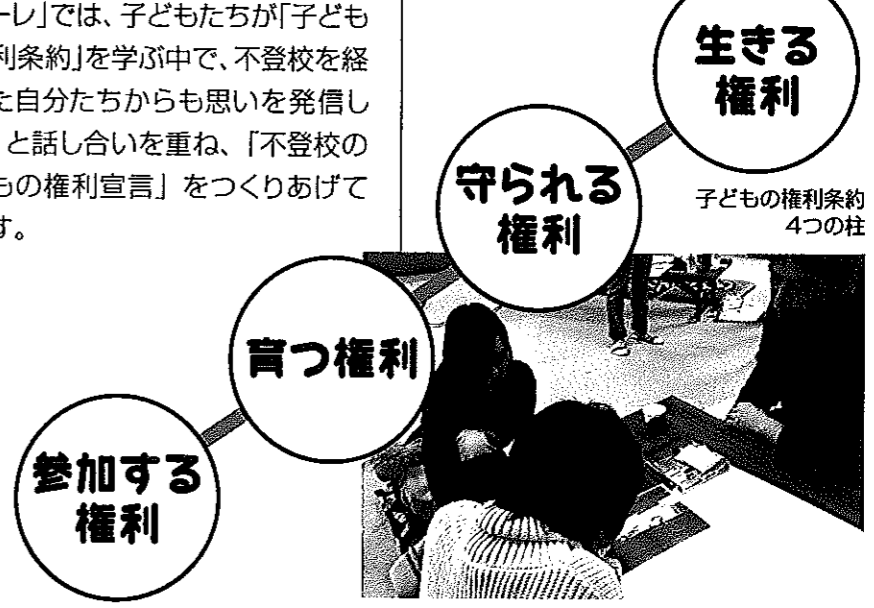
「子どもが権利を主張するというと、わがままになるという人もいますが、子どもの権利はわがままを言う権利ではない」という話もありました。誰か一人のわがままではなく、互いに幸せな状況にあるようにコミュニケーションを重ねていく中で、「権利」は育っていくものなのかもしれないと思いました。

東京にあるフリースクール「東京シユール」では、子どもたちが「子どもの権利条約」を学ぶ中で、不登校を経験した自分たちからも思いを発信したい!と話し合いを重ね、「不登校の子ども権利宣言」をつくりあげています。

ビーンズの活動に戻って

研修では、事例を交えながら活動の中に潜む子どもの権利を奪う可能性のあるリスクを検討しました。そこで何が適切で不適切な行動なのか、それを踏まえた対応、意識の向上、組織的な予防の努力が必要だということに気づきました。ビーンズでは今回研修を受け、各事業での共有と活動の中でのリスクや、それを予防するための計画を考えていきます。

子どもたちが安心・安全に活動できるビーンズになるよう、ぜひ皆様からの声をお待ちしております。何か気になることがありましたら、いつでもビーンズのスタッフまでお声掛けください。どうぞよろしくお願いいたします。



批准: 条約の内容に合わせて自分たちの国の法律を変えていく責任を持つこと。子どもの権利条約についてはこちらのサイトをご覧ください⇒<http://www.unicef.or.jp/crc/>